編 集 後 記

皆様方の多大なご協力のもとに，充実した医会雑誌にすることができましたことを深く感謝いたします．医療状況が悪化するなかで，よりよい透析医療をいかに行い守っていかなければならないかということが，会員の方々に伝わっていただければと思います．

透析患者の高齢化と合併症の多様化により，栄養障害を回避していかねばなりません．さらに，糖尿病患者の増加に伴い血管障害，特に下肢の血行障害が要介護者を増加させていることが問題となっています．Current Topics 2008 では，その対策として栄養障害で患者に対してなすべきことや，QOL を保つための下肢筋力の強化などを解説いただいており，今後の患者指導や日常生活指導に役立てられるものと考えております．医療経済では，全人口の約 0.15% の透析患者が国民総医療費の 4% 以上を費やしているという現実を踏まえて，腎不全に進行しない医療をめざし，CKD 患者の早期発見と管理を十分に行い，ストップ・ザ腎不全を志しましょう．それが医療費を抑制する一策となります．入院透析患者へのリハビリテーションに関する実態調査は，透析患者を含む腎臓患者の QOL 向上に対する包括的なプログラムが，腎不全患者に有効であると述べられております．廃用症候群や ASO による下肢切断患者，転倒骨折による患者の増加を抑制することも重要ですが，不幸にしてそのような状況に陥った場合には，患者にあったリハビリテーションが重要であることが示されております．医療安全対策の課題として，昨今の大地震や今後発生しうる新型インフルエンザや院内感染事故など全般的な対策が報告されております．これらの問題は以前より数多く論じられてきておりますが，あらためて一読していただき活きた利用をしていただければと思います．臨床と研究では，最近副作用の発生で注目されている MRI に使用する Ga67 ガリウムを中心に，診断用 RI の研究は合併症を多く持つ透析患者に対して役立つものと考えます．そのほか二次性副甲状腺機能亢進症の治療ガイドラインで，透析患者の骨合併症をミネラル代謝異常ととらえた CKD-MBD という新しい概念の紹介，透析患者の脂質代謝異常，下肢末梢動脈疾患の治療戦略，看護師が行うフットケアやシャントトラブル時に使用する薬剤溶出ステントの現況など，われわれが日常注目すべき研究成果を発表していただいております．

現在では透析医療のスタッフとして臨床工学技士が存在しないことなど考えられませんが，臨床工学技士制度が発足してまだ 20 年しかたっていないことが不思議でなりません．現在の臨床工学技士の仕事の範囲の広がりは目を見張るものがあります．是非とも多くの臨床工学技士の方々はもちろん，透析医療スタッフの方々に読んでいただきたいと望んでおります．また今回は，公募助成論文 7 編，学術助成論文 3 編が掲載されております．それぞれ有益な論文ですのでごらん頂ければと存じます．

日本にとって吉か凶かわかりませんが，本日，米国ではオバマ新大統領が誕生しました．またこの急激な金融パニック，株暴落，円高，そしてトヨタをはじめとする貿易立国を代表するわが国の企業が軒並み減益になっています．この影響は給与カットや増税，就業率の低下など全国民の生活に影響してまいります．この大きな“波”は医療界にも迫ってまいります．その中で透析医療の質低下を防止するように努力していきましょう．

広報委員　奈 倉 勇 爾